

瀬戸内トラストニュース

第35号 2005年 9月

環瀬戸内海会議 編集・発行／編集委員会

上関原発緊急事態 中国電力の海域調査開始に待った!!



調査用台船を取り囲む祝島漁協の人々

6月21日、中国電力は原発予定地内海域の詳細調査を強行しようとした。

祝島漁協を中心に、祝島島民と市民が阻止行動を展開し、三日間調査を阻止した。(詳細は2ページの「ドキュメント」をごらんください。)

海域調査に抗議の座り込み

6月24日以降も祝島漁協は、断続的に阻止行動を継続している。祝島へ戦いに支援の輪を広げてください。まずは現地に足を運んでください。

長島の自然を守る会では10月15日(土)
～16日(日)、原発予定地・長島田ノ浦で
海岸生物調査を予定しています。詳細
は長島の自然を守る会・高島までお問
い合せを。
(TEL 0835-23-1891 090-8995-8799)



目 次

上関原発緊急事態～4日間の闘いのドキュメント	高島美登里	2
止めよう！内海ダム再開発	環瀬戸事務局	5
豊島の人々とともに	阿部悦子	6
豊島・未来の森 新しい10年をともに	環瀬戸事務局	7
環境を守る文学の責任～川村晃生氏の第16回総会記念講演より～	青木敬介	8
環瀬戸内海会議総会を終えて	角田学	8
海藻おしば教室に参加して	生協都市生活	9
田島征三さんの講演会 in 佐伯市・大入島	東本高志	9
環瀬戸内海会議第16回総会報告	松本宣崇	10
環瀬戸内海会議第15期決算並びに次期第16期予算	環瀬戸事務局	11
上関詳細調査反対運動に支援のカンパを！		12

上関原発 身体を張った4日間の闘いのドキュメント

(祝島漁協ホームページ「上関原発反対運動」より抜粋；文責 高島)

6月20日 早朝から漁船約50隻でボーリング用の台船が置かれている上関町の白井田地区沖に向かい、警戒に当たる。中電から作業の開始は21日午前9時半から行うとの発表があり、明日に備えて昼前に引き上げ。帰島後、昼過ぎに中電が作業準備を開始しようとしているという情報が入り、再び抗議のためにいっせいに出港。中電は移動に備えて台船のアンカー（錨）をはずしていたようで、祝島の船が白井田に向かったためすぐに引き上げ。祝島の船は10隻ほど残って翌日早朝まで警戒にあたる。

6月21日 前日に泊り込んだ船に加えて朝4時半には祝島から応援の船が駆けつけ、約50隻が台船の沖側を遮る形で並び、中電の作業船に備える。前日から上関に来ていたシーカヤッカーも応援に駆けつける。現場には祝島の島民だけでなく、3団体（原発に反対する上関町民の会、原水爆禁止山口県民会議、原発いらん！山口ネットワーク）や長島の自然を守る会、ニュースを聞いた近隣市町の人たちなど合計200名以上が集まり、海上の台船周辺を見下ろす高台から事態を見守る。中電の作業船は何度か近づいては祝島の船やシーカヤックに阻まれて引き返す行動を繰り返し、6度目の接近に失敗した後の午後3時10分過ぎ、この日の作業中止を宣言し、退去。

6月22日 中電の作業船団は9時ごろに白井田沖に姿を現し、台船前に並んだ祝島の漁船と対峙。着いて早々に作業船団は突っ込んできた。中電の作業船団のうち、警戒船は漁業補償契約を締結した賛成派7漁協から中電に雇われた漁船。日当は1隻あたり4万円で、中電は警戒船のための予算として5000万円を準備している。作業船と祝島の漁船がにらみ合う中、警戒船が漁船の列に突っ込んできた。ぶつかってもかまわないと言わんばかりの強引さで、祝島の漁師は手やデッキブラシで警戒船を押し返さなければならない。その混乱の中、隙をみて、まず

最初に祝島漁協の山戸貞夫組合長、次に島でただ一人の女性の正組合員の漁師（62歳）が台船に上がった。船の上では、中電社員との応酬が続いた。中電の社員が、「海は誰のものでもない！」（だから祝島の漁師にも反対する権利はない、と言いたかったのでしょう）と言ってきたので、「ああ、そうじや。誰のものでもないから、わしら祝島の漁師は海で魚を獲らせてもらう代わりに、海を大事に守ってきたんじや。金さえ出せば自分のもんじやと勘違いして勝手に海を壊そうとしちょるのはおまえら中電じやないか！」と返すとその社員は何も言い返せなかつた。中電は午後6時過ぎにこの日の作業中止を発表。しかし台船上に祝島の4名がいるため、警備のために作業員と警備員は台船上に残すと宣言。緊迫した状況が続くにもかかわらず、翌朝まで中電側の責任者が現場に一人もいないという異常な状況となつた。

6月23日 結局、22日の夜から23日の早朝にかけて強制排除などは行われず、体調面を考慮して昨晚遅くに祝島に戻った船も、朝4時半には島の人たちを乗せて、現場に戻った。実は前日に以前祝島漁協の役員をしていた漁師さんが亡くなり、この日は葬儀が行われることになっていた。しかし今回の騒動、そして喪主の息子さん（この人も祝島で漁師をしている）の意向もあり、祝島の漁師としては、阻止行動を優先することにした。陸から「祝島は海を売つてないぞ！」のコールが繰り返される中、11時半頃、中電社員や作業員、警備員が台船に大勢上がってきた。まず山戸組合長が強制排除されないよう台船の柱の上に上り、清水上関町会議員は、するすると高さ15mの台船のやぐらに登った。午後1時、台船から中電側の人間が全て降りることと、この日の作業中止が海上保安官から伝えられ、2人はそれぞれ台船の柱、やぐらから降りた。

その後、祝島は島民も心身の限界に来ているとして連続抗議行動はいったん収束し、ゲリラ的な阻止行動に切り替えた。

祝島漁協ホームページ <http://www5d.biglobe.ne.jp/~jf-iwai/>

その後も続く波状阻止行動

上関原発建設計画：反対派、3度目の詳細調査阻止／山口

中国電力が上関町で進める上関原発建設計画の詳細調査に伴う海上ボーリング調査を巡り、祝島島民ら原発反対派は5日、漁船約15隻で建設予定地沖の作業用台船を囲んだ。調査開始後の阻止行動は3回目。中電はトラブル回避のため、同日の作業を一時、見送った。反対派は午前7時ごろから包囲開始。阻止行動には、広島県である原水禁世界大会の参加者約50人も加わった。祝島の漁業者は参加者を釣りに案内し、「周辺海域は好漁場」と強調した。中電は午前8時に作業を開始する予定だったが、反対派が退去する午後3時半まで作業に着手できなかった。中電上関調査事務所は「安全上の問題もあり、このような妨害は迷惑だ」と話している。

(8月6日付 毎日新聞朝刊)

瀬戸内で一番透明な海の危機

2004年12月25日と2005年4月3日に実施した長島の自然を守る会による調査では、透明度12~15mと、瀬戸内海では、最高度の記録を示した。(cf.広島湾や大阪湾では、冬でも5mないし6m)

塩分も32.5g/l前後と、黒潮の33.5g/lに近い高塩分。潮の流れが良く、豊後水道系の海水が、常にやってきて、良好な海水が維持されていることを物語っている。海底ボーリングが始まれば透明な水が濁り、騒音や振動で生物は寄りつかなくなり、着工して埋め立てれば生態系が壊れるのは必至。

詳細調査は「生き物たちへの死刑宣告」

貴重な生態系を破壊！

①希少生物たちの生息地で実施—詳細調査は、ヤシマイシン近似種・ナメクジウオ・スナメリ・ハヤブサなど希少な生物の生息域で行われる。

②無意味な炉心部分を除いた調査—炉心部分（地区共有地）を除く無意味なもの。

③日本生態学会中国四国地区会が反対決議—2003年5月、日本生態学会中国四国地区会は「調査のための森林伐採やボーリング掘削による騒音、海水汚濁などにより、長島の自然環境・生態系が甚大なダメージをこうむることは明白」と反対決議を採択。

④聞く耳持たない中国電力—中国電力は、科学的根拠もない環境保全計画を出して、「調査が環境に与える影響は少ないと思われる」と開き直っている。

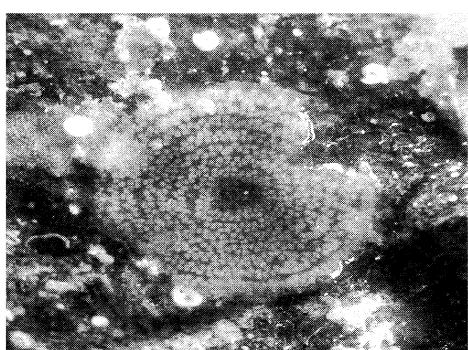
122,581名の署名・申し入れで抗議

2005年6月20日までに山口県・中国電力に詳細調査中止を求める署名122,581筆を提出。

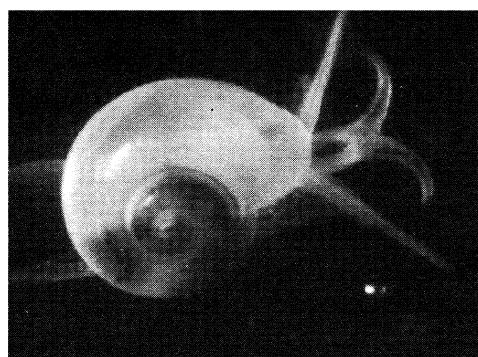
でたらめな中電アセスメント！！

ヤシマイシン近似種確認 中電；3年間1個体も発見できず！ 守る会；4回生息確認

中国電力は、環境アセスメントでヤシマイシン近似種の追加調査を命じられ、2002年より毎年夏季調査を実施している。中国電力が言うところの“専門家（氏名は公表せず）”に依頼しているが、1個体も発見せず。守る会は、写真のとおり、卵塊や生貝を4回も確認している。



ヤシマイシン近似種の卵塊



ヤシマイシン近似種

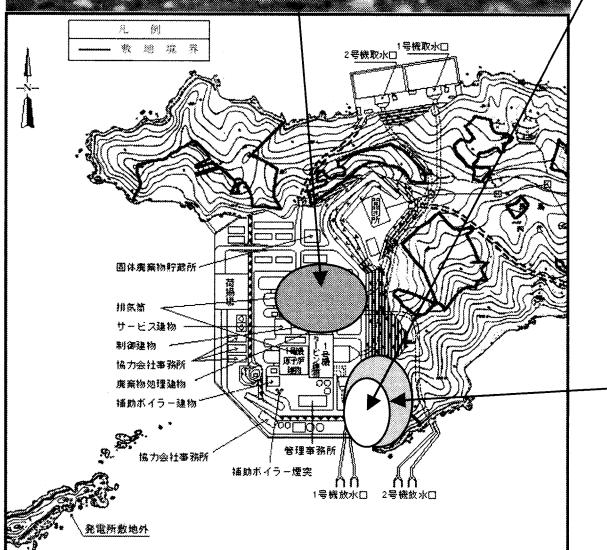
希少生物生息域の真っ只中で行われる海域詳細調査

詳細調査は、2005年5月、ナメクジウオを確認した地点で行われている。また、2005年7月調査で、ミミズハゼ確認地点の潮間帯では、岩礫の下や海底の砂泥が、嫌気化していた。これまでに見られない兆候であり、陸域ボーリング地点直下であることから、伐採や掘削に使用された水の沁み出しによる影響が疑われる。今後、中国電力や行政を鋭く追及する予定である。

05. 5月調査のナメクジウオ確認地点



ミミズハゼ確認地点



7月23～24日調査で異変確認！！

潮間帯の砂泥が嫌気化し、腐敗臭が漂う。



聞いは今から！ねぱりつよく、したたかに！

上関原発をめぐる情勢一課題山積なのに「ゴリ押し」

①地元意見は二分—計画浮上（1982年）以来23年間、推進派は不正転入・贈収賄など選挙違反を繰り返してきたが、推進派約57%：反対派約43%（過去7回の町長選）の割合は変わらず。周辺地域も反対が多数（アンケート調査より）。

②用地問題未解決（炉心部分）—a)地区共有地⇒推進派住民が中国電力と結んだ用地契約をめぐり係争中。一審判決では入会権が認められた。b)神社地⇒2001年売却を拒否している林宮司の解任願いが偽造され、県神社庁に提出される。2003年3月神社本庁が林宮司を突然解任。推進派氏子が売却を決議し、神社本庁が売却を承認。2004年10月中国電力が譲渡契約を結んだ。林宮司は解任無効と有印私文書偽造同行使を訴え、係争中。また、反対派の氏子も神社地の譲渡契約無効で係争中である。

③漁業権も係争中—予定地海域の共同漁業権について、8漁協のうち7漁協は漁業補償に同意したが、祝島漁協は契約無効で訴訟中である。

④海域調査の差し止め訴訟—2005年8月1日、祝島漁協と、調査海域で許可・自由漁業を操業する祝島の漁師53人は、中電の行う海上ボーリングを含めた詳細調査は漁業被害を与えるとして調査差し止めの仮処分申請を岩国地裁に申し立てた。

止めよう！内海ダム再開発

松本 宣崇

内海ダム反対立木トラスト1200本余、抗議はがき、全国から1700余通

香川県小豆島内海町の県による内海ダム再開発計画に反対して、立木トラスト（寒霞渓トラスト）に取り組んで、早3年近くになろうとしている。03年12月には立木トラストは、1000本を突破した。現在、その数、1200本を超える。ほぼ同時に、全国に呼びかけた「内海ダム再開発」抗議のはがきは、香川県によれば1700余通が届いたという。協力いただいた皆様に感謝します。

説明責任を果たさない香川県

地権者の話では、今年に入って、県は水面下で用地買収に入ったとか、反対地権者には土地収用をほのめかして言外に脅したり、「環瀬戸や全国水源連と手を切れ」と捨て台詞を残したりといったことが起きている。県が住民への説明責任を果たしているとは、到底言えるものではない。4月以降、再三にわたる予定地内地権者の情報開示の要求にも、県の情報公開制度に基づく手続を強要し、6月定例県議会で、説明責任について質問が事前にわかり、一部公開に踏み切ったに過ぎない。そこには県の不遜な、しかも住民と対等に向かい交渉しようしない態度が垣間見えてくる。

不可解極まる「内海ダム計画」

どう考えても、内海ダム再開発はおかしい。そもそも既存の内海ダムは小規模な水道水源用ダムである。9年前完成した吉田ダムによって小豆島では水は足りている。その小豆島での内海ダム再開発計画、県は水源確保に加え治水＝洪水調節を盛り込み、多目的ダムとしてきた。総延長わずか4kmの川に堤長447m、奥行きわずか300mのダム、極めて短い川でダムによる洪水調節が可能なのか。河道を整備し洪水から街を守る方法はないのか。その費用対効果のほどは。様々な疑問が湧いてくる。もとより香川県は水源の50%を吉野川の早明浦ダムに頼る全国有数の渴水県である。県は、内海ダム計画がポシャッタら他のダムもできなくなるとでも恐れているのか。

寒霞渓の自然を守る連合会高松市で街頭行動

ところが、こんなダム計画があることは、香川

県民にも余り知られていないようだ。

予定地は、多くの県民が誇りに思う寒霞渓の直下である。4月に立ち上げた「寒霞渓の自然を守る連合会」は5月から、毎月一回、県庁所在地・高松市で街頭に立ち、県民に「寒霞渓の景観を守ろう」「小豆島内海ダム建設反対」を呼びかけてマイクを持ち、チラシを配り続けている。高齢者も多く、炎天下の街頭行動は決して楽ではない。支えているのは寒霞渓の美しい自然、先人が守り残してきた国立公園「寒霞渓」を残したいという思いだろう。

「内海ダム再開発」に抗議はがきを全国から

他方、連合会では、内海ダム計画に疑問・抗議の声を全国から香川県へ寄せてもらおうと、同封の抗議はがき第2段を作成した。

この葉書で、全国から香川県知事に、抗議の声を寄せてください。



05年6月6日 香川県庁前で街頭行動



05年7月6日 香川県庁前で街頭行

豊島の人々とともに

阿部 悅子

豊島の女性たち

8月27、28日に一泊での、久しぶりの豊島。5月のアースデー以来である。今回の訪問は、島の人々とゆっくり話をし、同時に環瀬戸の役員会も行おうと言うものである。私たちが環瀬戸内海会議として豊島に通い始めて、来年で10年になる。豊島は、50万トンもの不法投棄廃棄物との30年近い闘いの結果、国と県はその誤りを認め、県知事は島民に直接謝罪をし、廃棄物の撤去が始まっている。全国にも誇る歴史を作ってきた勇敢で優しい人々の島である。

この島に来ると親しくなった人々に会い、元気や勇気をもらい、そして、おいしいものをいただく喜びがある。おいしいものを作る料理名人の女性たちが、ほんとうに大勢おられるのだ。豊島米もおいしい。イチゴもとびっきりのおいしさだ。お魚にワタリガニ、搾りたてのミルクもある。

家浦の「豊島交流センター」に、10人余りの女性たちが集まってくれたり、これから豊島について話し合った。彼女らは、これから、豊島の産物を使って「産直」をやってみたいと、いろんな夢を語ってくださった。すてきなことだ。



8月27日、豊島交流センターで

産廃で苦しんできた豊島の人々が、おいしいものを産み出すほんとうに「豊かな」島の住人といわれる日が近いのではないのだろうかと直感した。

私たちも、そんな人々とつながらせていただき、この島を見守りつづけていきたい。

豊島のお医者さん

今日(28日)、とてもうれしいことを聞いた。7月に行なわれた岡山での環瀬戸内海会議役員会で、石井さんの話では、今まで島で唯一人診療活動をしてこられたお医者さんが、高齢のため引退されることになった。1,200人弱という過疎化、高齢化の進む島に、これから来てくれる医者がみつかるかどうか心配しているというものだった。

私はそのことがとても気がかりで、島に着くなりその質問をしたのだった。するとどうだろう。島外に募集を出したとたんに、応募があったというのだ。

隣りの小豆島の病院に勤めておられた50歳のお医者さんが、「豊島のことをずっと見て来て、いつか何かの役に立ちたいと思っていのたで・・・」と申し出られたのだという。しかもその方は、「島ぐるみの地域医療」の構想を持ってくださると言う。そして、さっそく9月1日から診療を開始するという。

すばらしいことである。豊島の人々の長く苦しい闘いに共鳴し、その人々のために働きたいと考えておられたお医者さんに来てもらえるのだ。これが豊島のすごい財産、すごい力である。豊島は私たちの誇りである。

豊島・未来の森 新しい10年をともに

豊島と出会い早や10年、そしてこれから

「豊島・未来の森」事業は1996年11月、私たち環瀬戸が豊島と出会い、膝をつき合わせて交流し、島の人たちとの共同作業として発祥しました。このとき豊島は国の公害調停の真最中。調停の行方もままならない時期でした。美しい島を取り戻したい、豊かな島を次世代に引き継ぎたいと願う島の人たちの思いに心打たれました。

2000年に香川県との間に公害調停合意が成立、01年には産廃からの浸出水を遮断する遮水壁が完成し、産廃処理へ第一歩を踏み出しました。そして直島での無害化処理が決まり、03年9月には産廃の搬出が開始されました。しかし、産廃の完全撤去までには、これから少なくとも10年を要するといわれます。この10年は同時に、島の再生・自立への歩みですが、再生・自立には膨大な人的エネルギーを要するに違いありません。



05.4.25 摂 未来の森ゆうの浜植樹に福山わかつちの会の皆様の申し込み分、札掛け



05.6.26 摂 未来の森ゆうの浜植樹、台風で壊滅

「豊島・未来の森」発足から9年

送金額は約5000万円に達しました

私たち環瀬戸は、島の人たちと思いを共有し、関わり続け、支援するとともに都市部市民と結び

合い交流する手立てとして「豊島・未来の森トラスト」を実施、96年11月から05年3月までにトラストから豊島への送金は総額で約500万円に達しました。これもひとえに、豊島に関心を寄せるオーナーの方々に、未来の森トラストの理念をご理解ご協力いただいた賜物と、紙面を借りて深く感謝申し上げます。

そして、豊島未来の森はこの11月で、10年目に入ります。未来の森の事業はたやすいものではありませんでした。植樹・水管理・下草狩りと手間がかかります。島外からの作業はなおさらです。昨年は最も恐れていた台風の相次ぐ襲来と高潮で、海水をかぶり、打ち上げられた砂に埋まり、ウバベやアカガシの植樹約250本（03年11月実施分）が壊滅しました。これにくじけず島の緑を取り戻す作業に島の人たちとともに携わっていきたいと思います。

豊島・未来の森、新しい10年をともに

そして、私たち環瀬戸は、オーナーの皆さんとともに未来の森を通じて「次の10年」を関わり続けていきたいと考えています。この一年をかけて、「次の10年」どう関わっていくのか、いくべきかを議論していきたいと思います。オーナーの皆さん、まずは豊島にお出かけ下さい。

すでに島の人口は1200人を切ったようですが、そこには潜在するエネルギーがきっとあると思います。確信しています。島の自立への大きな源です。そんな人たちと交流してみませんか。きっとあなたも元気の源を得られることうけあいです。

10月23日 未来の森植樹にご参加を！

10月23日（日）、「豊島・未来の森」植樹を予定しています。ぜひ豊島でお会いしましょう。

「豊島・未来の森」植樹

10月23日（日）12時

豊島家浦港に集合

環境を守る文学の責任

～ 川村晃生氏の第 16 回総会記念講演より ～

青木 敬介

去る 7 月 2 日、神戸市教育会館における、環瀬戸内海会議第 16 回総会に先立つ基調講演は、これまでとは一味違う内容になった。慶應大学文学部の川村晃生教授は著名な文学史の研究者であり、ご自身が住む山梨県の自動車道建設を阻止する運動にも関わっておられるが、歌枕を訪ね、そこで詠われた風景・環境が、いかに変えられ破壊されたかを論考する。

今回のテーマは「瀬戸内海 いま むかし」。お話を特に環境破壊の著しい大阪湾・播磨灘に即して進められた。古くは各国の風土記から万葉集・古今集・拾遺集などの勅撰和歌集の歌に及び、大阪湾の沿岸、つまり摂津・河内・和泉の海岸の松原や樹林が、少なくとも大正末期までは、いかに豊かに保たれていたかを、それらの歌や絵図を示して実証された。



現在の神戸・芦屋・西宮（大阪は論外として）堺・高石・泉大津・岸和田などの各市の海岸の、殺風景な鉄とコンクリートで固められた無残な姿を知る人ならば、この落差の激しさには嘆息させたことだろう。

「おきつ波高しの浜の浜松の名にこそ君を待ちわたりつれ」（古今集 卷 17）と詠われた高師浜は、昭和初期まで隣接する堺市の浜寺海水浴場とともに、西に向けて広がる大阪湾最大の遠浅の砂浜として、多くの市民の憩いの場であった。それが今は、前面に埋立て造成された広大な人工島に、大阪ガスの LNG タンクや三井東圧化学のプラントがそそり立ち、褐色の水が濁る狭隘な水路である。

散木奇歌集や山家集に出てくる鳴尾（西宮市）の浜松にしても、大阪湾の最奥部（北東隅）で、尼崎大物の浜同様、幾何学模様の埋立地が沖へ沖へとせり出して、大型ダンプカーの轟音ばかりが喧しく、「松風の音」など夢だにも聴けない。播磨灘に面する加古川・高砂・姫路の各地に至っても同様である。

このような海や山の環境が無茶苦茶に壊された中で、そこに暮らす人々（特に子どもたち）の感性が、いかに衰え粗雑になるか、川村氏は特に強調された。

美しい川・山・海の景観、そこに吹く風の音、水の流れのリズムときらめき、そしてそこに棲む多くの生物たちの姿に接してこそ人々の情感もまたあたたかく豊かなものになる。大きな自然の息吹きや微妙な循環の姿から遠ざけられ、鉄とコンクリートの中で育ち過ごす人が、本来の人間性を失って、怖ろしいことをやってしまう事件が、今増えてきている、と――。

最後に川村氏は、井上靖や薄田泣董の文章を引いて、自然の景観が人間にとてどれほど大切で必要なものかを述べ、本来の自然の姿を詠い画くことで、これを守り残す責任が文学に関するものにあることを力説された。

（2005 年 8 月）

環瀬戸内海会議総会を終えて

今回の神戸での総会開催は、1 日目の川村先生の講演、運動各地の現地報告、2 日目の野田さんの海藻おじば教室、大阪湾クルーズと総会以外にも多様な中身をもつことができ、あらためて環瀬戸内海会議に集う多くの人たちのネットワークの力を感じた 2 日間でした。参加した都市生活の組合員にとって、自分たちの住む地域や暮らし、その中で生協都市生活として取り組んできた運動を「瀬戸内海」というペースペクティブからとらえ直すことができたのは、実に新鮮だったと思います。日常的に厳しい緊張にある運動現地とは、厳しさは違うにせよ、共通するものを感じとったことは、これからお互いの力になることは間違ひありません。そのことが、環瀬戸内海会議の大きな存在意義のひとつを感じた総会でした。最後に、受け入れ準備の不行き届きも多々あったかと思いますが、よい出会いがたくさん生まれたことに免じてご容赦下さい。

（生活協同組合都市生活 角田 学）

<海藻おしば教室>に参加して



「海藻おしば教室～海の森からのメッセージ」には30名ほどの参加があり、海の森のビデオを見ながら、環境についてのお話をきき、その後、赤、茶、緑のカラフルな海藻を使いはがきにおしば作りをしました。それぞれが力作ぞろいで、そ

の作品は10月に開催する都市生活の生協祭＝「あいたくて都市生活」の会場に展示します。

以前に海藻おしばをテレビで見て興味を持ち、参加された尼崎支部の松本汐梨ちゃんもとても楽しかったそうです。お母さんの松本千亜紀さんも、なかなか出来ない体験をすることが出来たとおっしゃっていました。（生協都市生活）

<参加者の感想>

海からのメッセージを感じて、集中して作品作りをしました。自然は芸術と生命にあふれていますね。（三原 代子さん）

海藻で絵画のダ・ビンチの「モナ・リザ」とムンクの「叫び」を初めて作って、楽しかったです。また作りたいです。（三原大輝 君）

田島征三さんの講演会 in佐伯・大入島

大分県地域自治政策研究センター
おおいたローパス事務局次長 東本 高志

今年の夏。私は、環瀬戸内海会議の会員になった。7月26日に佐伯市であった田島征三さん（絵本作家）の講演会の終った後に阿部代表と松本事務局長から勧誘された。田島さんは、大入島埋立反対運動の支援のため講演先の大分県日田市から（高速を利用して車で3時間強の道程）わざわざ手弁当で駆けつけてくださったのだった。

私は、田島さんの話に感動していた。私はだいたい講演会というものには懐疑的だが、田島さんの話はとてもよかったです。こういう話なら何度あってもよい。田島さんという人間がしゃべっている。そのことに感動していた。彼の子ども時代の話がよかったです。「いとおしい思い出のつまつた」日々の話。鰐やゴリ（ドンコ）が彼の手のひらの中で全身の力で暴れる感触。田島さんは、大人になって地元の東京・日の出村のゴミ処分場建設反対運動に奔走することになるが、その自然へのいとおしみ、権力への激しい怒りの原点は、彼の子ども時代にあったことがよく納得された。

そうした感動の直後だったから、阿部代表と松本事務局長の勧誘はタイミングがよかったです。私は即座に「いいですよ」と言ったのである。それに私は、私の知っている環瀬戸のメンバーが好きだ。

松本さんの野人ぶりがいい。阿部さんの一徹さがいい。豊島の石井さんの律儀さがいい…。



私たちはその日の午後、大入島石間浦の海岸で「海岸生物調査」をした。私たちというのは、阿部さん、松本さん、大入島の下川さん、大分県日出町の岸野さんなど10数名である。「海岸生物調査」は私にとって初めての経験である。阿部さんの号令のもと、私たちはカメノテ、イボニシ、フジツボを探した。というより、目の前は貝の宝庫だ。探す必要はない。数えるだけだ。私のような初心者でも10分もすれば貝の種類が判別できるようになった。慣れれば慣れるほど貝の棲家がよく見える。もしかしたら、お昼に乾杯したビールのせいか。

環瀬戸内海会議第16回総会報告

環瀬戸内海会議第16回総会は、7月3日(日)兵庫県民会館において開催された。あいにくの前日からの大雨の中、残念ながら例年より出席者は少なくなってしまったが、結成から満15年を経て、なおかつ、瀬戸内海の環境を守り育むために活動を続けようと思いつがみなぎり、熱い議論であつという間の3時間であった。

森田修・長島の自然を守る会事務局長の巧みな司会進行で、盛会のうちに終了した。司会の大役を快諾頂いた森田氏には、失礼とは思うが紙上をもってお札を言いたい。

とはいっても、環瀬戸の前途は険しい。論議に多くの時間を割いた点について報告し、今後の環瀬戸の運動を活力あるものにしていくために広く議論を呼びかけたい。

瀬戸内法改正署名

瀬戸内法改正署名については、03年、第14回総会で「脱埋立て宣言」を採択してからすでに2年余、しかし寄せられた署名数は約60,000筆。一万筆を越しているのは兵庫県と愛媛県だけである。その反省として以下のような意見が寄せられた。

①署名運動の意味が会員に充分理解されていない、もしくは周知が不徹底、あるいは個々の会員の関心領域との差があるのではないか。克服のために、役員体制の見直し、組織体制の再構築が必要なのではないか。②諸団体への組織的取り組み協力を進めることが必要。③当会が取り組む個別現地の闘いと必ずしも連動しない。④本来瀬戸内海のテーマとして取り上げるべき、例えば芦田川河口堰問題への取り組み、地元の運動との連携・連動を図るべきである。⑤署名活動をわかりやすくし、期限を明確にすべきである。

意見を真摯に受け止め、役員会の活動の再構築、連絡体制の充実、そのための各府県体制の確立、キャラバン活動の組み直し、「瀬戸内円卓会議」(仮称)の位置付けや開催への行程、役員個々の活動・キャラバン・各府県署名推進のための体制確立をどう連動させていくのか、役員会で至急具體化していくことになった。



第16回総会後の大坂湾エコクルージング
雨で視界不良。二種類のプランクトン大量発生し赤潮に。透明度は1.2~1.5m

海岸生物一斉調査

海岸生物一斉調査については、昨年は、相次ぐ台風の襲来と調査に最適な土・日曜の大潮が重なり、調査地点数が85ヶ所にとどまった。今年はセブンイレブンみどりの寄金助成を取得、有効な活用を要請、一斉調査を各地のイベントとして広く呼びかけて実施できるよう工夫を要請した。

佐伯市大入島廃棄物埋立て計画反対運動

今年1月、太田県が埋立て工事を強行し大入島島民が体を張って阻止した大分県佐伯市大入島「廃棄物埋立て護岸計画」(以後、工事中断のまま)について、大分地裁で係争中の「埋立て免許取消裁判」勝利めざし「公正な裁決を求める署名」に全力で取り組むことを確認するとともに、佐伯の自然を守る会と連携し計画中止を求め活動することを確認した。

上関原発詳細調査反対運動

上関原発建設問題では、中電の海上詳細調査に対し、6,20~23、祝島漁協は体を張った阻止行動を展開し、陸地にも各地から詳細調査に反対する市民が結集、反対行動を繰り広げた。詳細調査は今後2年間かかると見られ、現地は刻々と動いており、現地に足を運ぶよう要請する。

豊島・未来の森トラスト

現在、豊島では第一次産業に軸をおいた事業活動による島の自立と情報発信が構想されている。島内での育苗・育樹・樹木の手入れ等、島で生産される農水産品を利用した加工品の製造・販売など。

また、豊島・未来の森は06年11月で、満10周年を迎える。イベント一辺倒でなく、島の人たちとじっくり膝を交えた交流を図っていきたい。少なくとも不法投棄された産廃が完全撤去されるまでには10年はかかる(処理期限は2018年3月末)。「次の10年」、私たちはどう関わるのか、関われるのか、関わるべきなのか、幅広い議論を進めることを確認した。

文責 事務局長 松本宣崇

**環瀬戸内海会議・第15期(2004.4.1～2005.3.31)予算・決算
並びに、次期第16期(2005.4.1～2006.3.31)予算案**

	2004年度(2004.4.1～2005.3.31)			2005年度
	予算	決算	増減	予算
[収入]				
前期繰越	1,295,626	1,295,626	0	1,618,996
年会費	1,000,000	587,000	-413,000	800,000
事業収入	300,000	580,600	280,600	850,000
寄付・カンパ	500,000	1,284,561	784,561	500,000
雑収入	100,000	0	-100,000	0
受取利息	0	12	12	10
トラスト繰入益	550,000	479,500	-70,500	100,000
収入合計	3,745,626	4,227,299	481,673	3,869,006
[支出]				
会議費	20,000	6,743	-13,257	20,000
旅費交通費	500,000	305,172	-194,828	300,000
通信費	300,000	187,004	-112,996	200,000
事務用消耗品費	100,000	73,175	-26,825	80,000
諸会費	10,000	1,800	-8,200	20,000
支払手数料	3,000	3,365	365	7,000
プロジェクト費	0	0	0	0
寄付金	0	22,000	22,000	20,000
雑費	50,000	63,834	13,834	50,000
トラストニュース	900,000	711,880	-188,120	700,000
支払利息等	1,000	0	-1,000	0
総会費	150,000	681,991	531,991	150,000
事務所費	360,000	360,000	0	840,000
複写費	50,000	88,344	38,344	120,000
機材購入費	100,000	102,995	2,995	0
支出合計	2,544,000	2,608,303	64,303	2,507,000
[残金]	1,201,626	1,618,996		1,362,006
次期繰越	1,201,626	1,618,996	417,370	1,362,006

監査報告

2004年度環瀬戸内海会議会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監査

小西 良平

印

坂永 年弘

印

瀬戸内法改正署名に引き続きご協力を！

脱埋立て宣言を採択してはや2年余、全国各地から寄せられた署名数は、60000筆余り。法改正への世論形成には、ほど遠い数字です。
会員の皆様の創意工夫にあふれた署名活動を引き続きお願いします。

上関原発詳細調査反対運動に支援のカンパを！

中国電力は6月21日、原発予定地の詳細調査＝ボーリング調査を強行しました。予定地の山口県上関町長島～祝島一帯は、最も瀬戸内海の原風景を残すところです。最小のクジラ＝スナメリの最も多く確認される最も自然豊かな海域です。しかし7月下旬にはボーリング調査による汚染が確認されました。祝島漁協は、漁を休み手弁当で

調査阻止行動を断続的に続けています。

運動の先頭に立つ祝島島民へのカンパをお願いします。

同封郵便振替用紙通信欄「上関詳細調査反対支援」に□印を付けて振込みをお願いします。皆様の願いを添えて当会で責任を持って祝島に届けます。

よみがえれ浦島の島

海のアースデイ詫間 in Awashima

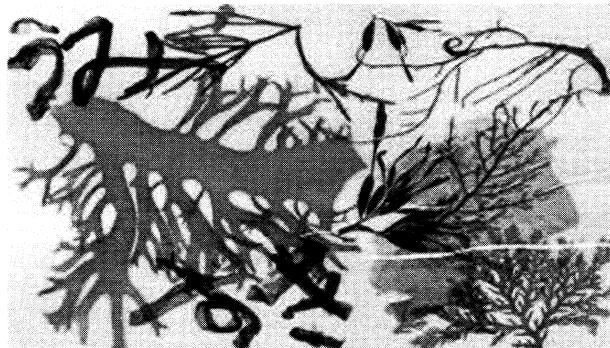
9.23(金)～24(土) 13:00～

詫間町粟島 (少雨決行・雨天中止)

主催 よみがえれ浦島の島海のアースデイ詫間
in Awashima実行委員会
(代表 岡市友利)

連絡先 769-1101 詫間町詫間1338-5
詫間町商工会内
Tel 0875-83-2325 Fax 0875-83-4049
Email earthday—info@silentkids.org

環瀬戸内海会議も、豊島ネットと合同で海岸生物調査など展示し、瀬戸内法改正署名を呼びかけます。



7, 3 海藻おしば教室in神戸作品

「ナガシマフィールドガイド」完成！

環瀬戸内海会議も協賛し、長島の自然を守る会が作成を進めていた「ナガシマフィールドガイド」が6月完成しました。とっておきの瀬戸内海、究極の楽園。山口県上関町長島～祝島海域の豊かな生態系を全国に知らせてください。

原発でこの豊かな海域を壊すのか、それとも守り育み次世代に引き継ぐのか、今、瀬戸際です。究極の楽園を守るために「ナガシマフィールドガイド」をご活用ください。
一部100円で販売しています。

環瀬戸内海会議にご入会ください

年会費 個人1口2,000円 団体1口5,000円です。

瀬戸内トラストニュース 第35号 2005年 9月15日 発行／発行責任者 前田俊英
環瀬戸内海会議 代表 阿部悦子 (Tel 089-915-0619) 事務局長 松本宣崇
事務局：〒700-0973 岡山市下中野318-114 松本宣崇方
TEL&FAX 086-243-2927
郵便振替口座 01600-5-44750 加入者 環瀬戸内海会議
URL <http://www.tiki.ne.jp/~rkshizutani/> メールアドレス kanseto@mx36.tiki.ne.jp